

少子高齢化に伴う課題と解決策

資料No. 2

高齢化に伴う取り組み

めざすべき姿	現 状 と 課 題	解 決 策
町内巡回バスの運行	高齢者の一人暮らしや高齢者だけの世帯が年々増加して、通院等の運転を第三者に依頼する人も増えている。	分水・吉田・和島を含めた巡回バスの運行。
	分水・吉田・和島方面の医療機関への通院は不便。大型スーパーへの買物も同様である。	
	交通機関が不便のため、高齢者の運転免許証の返納が遅れ、今後交通事故の増加が危惧される。	
	高齢者のみならず、孫の子守りをしている方で運転免許のない人は、「運動あそび」などに来づらい。	気軽に利用できるニーズに順応でき、負担の少ないもの。
	現状は、家族が仕事を休んで送迎している。町内全体を回れるか疑問。	月に2回程度有料で運行。
	路線バスの回数が少なく不便である。	通学通園バスの使用。
	バス停まで遠く、運転ができないと困る。	ボランティアの運転代行
	東西南北に広く運行するには、公平性の観点から非常に難しい、路線形態も難しい。	当初は、町内のみの運行から計画し、福祉面の観点で運行。
車が無く、一人暮らしのお年寄りは、買物や通院するにも大変。	巡回バスがあればよい。移動販売車が周りに2～3回でも来てくれたら助かるのでは？	
隣近所のサポート体制	見守り・声かけ・外出支援等のボランティアが不足している。	地域の拠点となる場所（施設）の確保と核となる人材の確保。
	災害発生時の安全確保対策が整備されていない。	元気な高齢者が虚弱な高齢者を支える体制づくり。
	民生委員・児童委員の活動だけでは、今後不足することが予想される。	各地域で活動に専念できる体制づくり。
	一人暮らしで認知症が始まった方のプライドを傷つけないサポート。	信頼できる近所関係。
	今のところ問題はないが、これからが心配。	各集落ごとのサポート体制づくり。
	個人情報の関係で把握できない。	民生委員等の公共性組織の活用。
	民生委員の活動が見えない。	町内で支え合い声掛け。
	一人暮らしや老夫婦の孤立化。	週に1回とか、地域の公民館などに集まって、手などを動かす簡単な体操をしたり雑談したり、コミュニティの時間を作る。
隣近所の顔と名前も知らない、一致しない。	近所の子供たちと、例えば挨拶に行ったり一緒に畑仕事をしたり、何かしらの交流を持てば、お互いの顔や名前を覚えて、お互いがお互いの安全を少しでも守れたらいい。	

健康増進事業と介護予防事業の推進	当町の特徴として、介護予防活動に対する無関心者が多く、実施者も少ないといわれている。	社会福祉協議会や老人クラブにまかせることなく、あらゆる機会を活用して、健康意識の醸成と介護予防についての啓蒙活動を行う。
	老人クラブも減少傾向にあり、特に男性の加入が少ない。	
医療機関の拡大	寺泊海岸部の医院は年々減少し、現在は1ヶ所となり、町外にかかりつけ医院を求めている。	地域包括ケアシステムの推進には、医療機関の拡大は不可欠であり、市の今後の事業計画等に要望していく。

少子化に伴う取り組み

めざすべき姿	現 状 と 課 題	解 決 策
子育て環境支援 (地域で守る子どもたち)	児童クラブが大河津に1ヶ所のみで、時間も午後6時までと制約があり、利用しにくい。	施設を小学校に併設するか、各地域に同様の施設をつくる。
	学童保育が「センターおこづ」1ヶ所で不便。	寺泊小学校内につくる。
	若者の生活する場所が少ない。	企業など働く場を誘致。
	子育ては、ママさんのみ集りが多い。	コミュニティセンター1日開放などで、高齢者と子供達一緒に使用する。
	子供は地域の宝、地域ぐるみで守る。朝夕（特に学校登下校）時を見守り活動で取り組む。	家庭や地域社会との日常的な連携と協力が必要。
	学童が1～3年生までだから、4年生～の子供たちの親は長期の休みだと預ける所がない。4年生～でも一人で家は心配。（預ける所が無く、一日子供を一人で（兄弟で）家においておく人もいるのが現状です）	小学校などの教室を利用した学童保育。長期の時だけでもあずけられる場所の提供。
	子供を育てやすい環境になれば子供を産む人が増える。	医療費助成。保育料の無料化（もしくは一定額）。お母さんたちが相談や雑談ができる交流の場所。
	近くに医者もなく、風邪をひいた時にあずける施設、病後にあずけられる施設がない（燕市の医療施設で、そういう所ができた）	病児・病後児保育の施設があると、働いている親たちは助かります。